

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【報告書タイトル】

特別の教科「道徳」の授業実践について 仙台市立柳生中学校

### 【実践者】

氏名	鈴木 康洋	学校名	宮城県仙台市立柳生中学校
担当教科等	道徳	対象学年（人数）	1年1組（36名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年11月5日（火）		

### 【実践概要】

1.活動名：	ルサカ市内のごみ処理問題に、私たち日本人はどのように関わることができるだろうか
2.内容項目および目標：	国際理解、国際貢献（C 主として集団や社会の関わりに関すること） 世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与しようとする気持ちを育てる。
3. 評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ザンビアの文化や歴史などを背景として多面的・多角的に問題と向き合い、話し合い活動や発表を通して課題解決方法の糸口を見つけようとしている。【物事を多面的・多角的に考えている様子】</li> <li>・ 自分でよく考え、判断していこうとする意欲的な発言や記述が見られる。【道徳的価値について理解を自分との関わりで深めている様子】</li> </ul>
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>特別の教科道徳の目標は、「よりよく生きるために基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」とある。本授業の内容項目は、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の「国際理解、国際貢献」である。</p> <p>jica 教師海外研修で日本の教師が見てきたザンビアの現状や体験してきた様子を生徒たちに伝える活動を通して、生徒が日本とザンビアの繋がりを身近なものとし、外国の出来事を自分事として考え、国際視野の拡大と国際貢献の心を育むことをねらいとしている。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>本授業では、参加教師が 10 日間の研修の中で心に強く残った「ルサカ市内のごみ問題」を主な題材として扱うこととした。ザンビアの首都ルサカ市内が抱えた問題とその課題の解決に向けた姿勢について、日本の立場を深く考え、自国の発展のみならず、他国を尊重し、世界平和や人類の発展に貢献しようとする生徒の心情を育成したいと考えた。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>本学級は男女ともに意見が活発に飛び交う活気のあるクラスである。ザンビア事</p>

前学習の一環として、「宮城県仙台市のお土産をザンビアに持って行くには何がいいだろう」をテーマとしたディベート活動を行った。生徒たちはザンビアという国について熱心に調べ、仙台の特産はザンビアに受け入れられるのか積極的に話し合い活動を行った。その後、共同編集でまとめたスライドを同研修参加教員の所属校である、宮城県石巻市内の学校とオンラインで発表活動を行い、両校生徒ともに活発な意見交換を行った。

海外研修後には、ザンビアで見てきた町並みや人々についてまとめた「ザンビアを学ぶ会」を、1 学年全体を対象として実施した。興味深く話を聞いている生徒が多く、これまで知ることのなかったザンビアという国について興味を持つ姿が多くあった。質疑も活発に行われ、生徒たちにとってザンビアという国はより身近なものになった。

しかし、生徒たちは遠い国の出来事はあくまで遠い国の出来事として捉えており、他国の問題に対して、問題意識を自然発生的に抱くことは難しい様子があった。日本とザンビアの共通点と相違点を整理しながら、国際的な視野を広く持たせることで、日本人として世界に貢献できるような集団を育成していきたい。

**【教材観】**

jica 教師海外研修に参加した教員の率直な想いを投げかけることで、他国の問題を生徒にとって身近な問題とさせたい。他国の問題を自分事として捉えた上で、問題発生の背景を考察し、問題から課題を見付け、課題解決に向けた取り組みを検討することで、国際理解、国際貢献の姿勢を養いたい。本授業では、ザンビア首都ルサカ市内のごみ処理問題について、写真や動画、教師海外研修に参加した教師の想いを綴った文章の自作教材を活用し、生徒の国際視野・国際貢献の心情の広まりを促すこととした。フォトランゲージや ICT を活用したシンキングツール（ピラミッドチャート等）などの手法を取り入れ、本授業のねらいに迫っていく。

**【指導観】**

本学年は、英語科の授業の一環としてアメリカの学校と連携した学習を行っており、国際理解教育に前向きに取り組んでいる。そのため、本学級のみならず学年として他国の文化や環境、歴史など、国際的視野の拡大に興味関心を持つ生徒が多い。そこで、本授業も学年全体で扱うものとして取り上げたいと考えた。本単元は教師海外研修に参加した教師だけの授業で終わらせず、他教員も実践できるよう、ねらいに迫るため ICT を有効活用した汎用性の高い授業を提案することで、目標にせまっていくこととした。

**6. 本時の展開**

本時のねらい：

ザンビアの文化や歴史などを背景として多面的・多角的に問題と向き合い、話し合い活動や発表を通して、日本人の私たちは何をすることができるのか、課題解決方法の糸口を見つけようとしている。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動	生徒の活動および予想される生徒の反応	備考 資料（教材）
-------	-------------------	--------------------	--------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導形態</li> </ul>		
<p>導入</p> <p>(5分)</p> <p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章教材を活用し、ごみ処理場で日本人教師が感じた思いを共有する。</li> </ul> <p>【個人活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理場の写真を見て、様々な「気づき」をまとめさせる。</li> </ul> <p>【グループ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気づきを班内で共有し、問題点を抽出させる。</li> <li>・問題を解決するための解決手段や手法をグループ内で考察、提案させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルサカ市内のごみ問題について現状を知る。</li> <li>・人やもの、環境に視点を置き、ごみ処理場の写真を見て気づいたこと、疑問に思ったことをロイロノートのカードにまとめる。</li> <li>・まとめた内容を提出ボックス「写真をみて気になったところに」に提出する。</li> <li>・問題点の共有をする。</li> <li>・ザンビアの文化や宗教、生活、国民性などを背景として、ごみ問題の背景を探る。</li> <li>・問題点を話し合い、班の代表生徒はピラミッドチャート下段に問題点を具体的に記入する。</li> <li>・解決策を検討し、まとめていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートによる導入(教材配布とTV提示)</li> <li>・教師による範読</li> <li>・ロイロノート展開①</li> <li>・提出ボックスの共有による他者参照</li> <li>・提出ボックス「写真をみてきになったところ」</li> <li>・ロイロノート展開②</li> <li>・ピラミッドチャートの活用</li> <li>・提出ボックス「ピラミッドチャート」に代表生徒が提出</li> </ul>
	<p>【中心発問】日本人として関わることにはどんなことがあるだろうか</p>		
<p>(38分)</p> <p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決策を達成させるために、日本人としてできることは何か、話し合い活動を通して考察させる。</li> <li>・検討した案を班の代表生徒が発表させる。</li> </ul> <p>【個人活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の感想とまとめを記入させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人としての視点から、他国の問題に対してできることはないか話し合う。</li> <li>・検討した結果をまとめ、発表する。</li> <li>・本時の感想を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノート終末</li> <li>・提出ボックス「本時の感想」</li> </ul>

7. 本時の振り返り	<p>文章を読み上げながら写真や動画を見せた。生徒たちは想像以上の光景に驚きの声をあげ、強い興味と関心を示した。導入で視覚的に状況を理解させ本題に迫る展開を図ったが、一人一人が気づきを探し、問題の明確化と課題解決に向けた取り組みを考える様子が見られた。既存知識のみでの話し合いの深化は、生徒にとっても悩ましい様子があったが、グループでのディスカッションも熱心に行っており、本授業のねらいは達成できたと感じた。</p>
8. 学習方法及び外部との連携	<p>今後の展望として、生徒の意見、感想を元に外部機関と連携をとって、生徒たちに新たな視点でフィードバックさせたい。</p>
9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年全体を巻き込む活動を行った。出国前は各学級ザンビアについての事前学習を行い、帰国後は学年集会や道徳の授業を通してザンビアについての学びを深めた。</li> <li>・校内掲示物を作成し、昇降口前に掲示した。登校する生徒はもちろん、来校者や行事のたびに足を運ぶPTAにも周知するきっかけとなった。</li> <li>・学年通信等お便りを通して家庭や地域への発信を行った。</li> <li>・国際理解教育に興味のある教員へ経験の発信と研修の案内を行った。</li> </ul>

### 【自己評価】

10. 苦勞した点	<p>ごみ問題をテーマに授業づくりを行った。テーマが重く深い内容だったため、どのように展開、終着させるか推敲を重ねた。本授業は生徒の自由な発想を期待したが、生徒の既存の知識やこれまでの経験のみでは思考の限界があることがわかり、多岐にわたった意見や生徒同士の話し合いによる学びの深まりにはつながりにくかったと感じた。</p>
11. 改善点	<p>ピラミッドチャートの課題の提示の仕方、関連性をもっと吟味すべきだった。また、ダイヤモンドランキングのようにある程度明確化した解決策を提示し、優先順位をつける活動の方が中学校1年生の発達段階においては有効な手段だったのではないかと感じた。自由な発想もちろん大切だが、既存の知識のみでは思考の深まりに限界があるため、多面的・多角的な視点を持たせるためにも選択肢を与えた授業展開の方が良かったと感じた。</p>
12. 成果が出た点	<p>テーマは重く、内容も簡単ではなかったが、与えられた課題に生徒たちは一生懸命考え、取り組もうとしていた。考えた結果は多岐にわたるものではなかったが、生徒それぞれがザンビアのゴミ問題について真剣に考えており、国際視野を広めるきっかけとしては大きな成果を得られたと感じた。</p>

13. 学びの軌跡  
(児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど)

授業を受けて、考えたこと、思ったこと

今までザンビアのことはあまり知らなかったけど、日本人からしてはあまり良くない状況なんだなということがわかり、少し複雑な気持ちになりました。

国際的な視点で興味のあること、やってみたいこと

ゴミの山はどのようにしたら無くすことができるのか・日本人としてできることはないかを考えるのが楽しかったです。班のなかで日本のゴミ収集車を寄付したらいいんじゃないかなという意見や、募金活動をしたらいいんじゃないかという意見があって、面白そうだなと思いました。

知りたいこと、聞いてみたいこと (任意)

そもそもなぜゴミがあのような状態になってしまったのかが気になりました。

生徒の感想①

「複雑な気持ちになった」と、感情の揺さぶりや変容が見られた。

授業を受けて、考えたこと、思ったこと

世界中が平和になるのって難しいなと思いました。  
すべてつながっているから、小さな問題のように見えてもとても大きな問題だなと思います。  
私もなにか力になれるようなことはないかなと思います。

国際的な視点で興味のあること、やってみたいこと

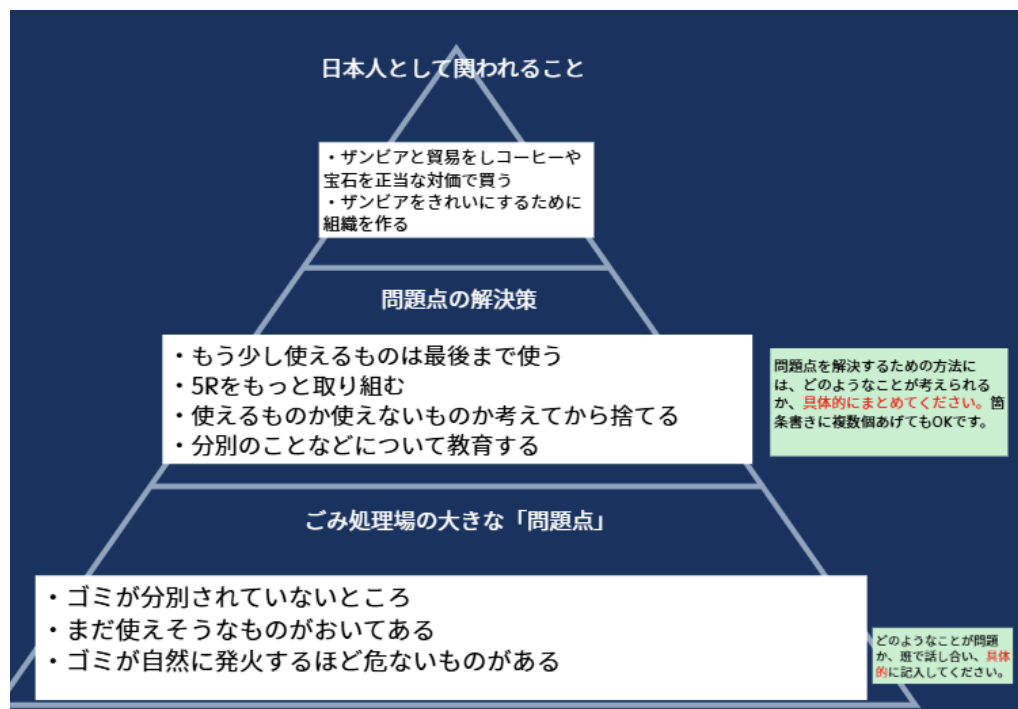
環境の問題などたくさん考えることがあると思うので、まずそのことを知ってもらうのが大事だなと思います。  
日本からも発信できたらなにか変わるんじゃないかと思います。

生徒の感想②

「何か力になりたい」「日本からも発信していきたい」と、普段は海外について考えることの少ない生徒たちも、今回の授業をきっかけに国際的な視野を広げることができた。



展開①写真の中の気づきのまとめ（個人活動）



展開②問題の明確化と解決策の考察（グループ活動）

14. 授業者による自由記述

本授業は単学級の指導ではなく、学年全体の道徳の一単元として扱った。同様の授業を2～4組にも実践してもらったが、どのクラスも課題に真剣に向き合い、取り組んでいた。授業作りにおいて苦勞したことや、改善点が多く見つかったこともあったが、生徒にとって身近な教員が見てきたもの、感じてきたものは他の教材、授業よりも心に響くものがあり、国際理解の種をまくことができたと感じた。今回の実践をブラッシュアップしながら、これからも開発教育の実践を進めていきたい。

参考資料：

【教材（ロイロノート）】



左から導入（文章教材）、展開（写真、ピラミッドチャート）、まとめ（感想等）の順で教材を準備汎用性を高める工夫として、上段には指導上に関する注意点や時間配分などの資料、中段には使用する教材、下段には生徒の意見回収ボックスについてまとめている。

【教材（文章教材）※ロイロノートにて生徒に配布】

ルサカ市内には、公的なごみ処理場が1箇所存在します。広さは24ヘクタールほどで、ルサカ市内全域から1日1700tものごみが運ばれていきます。

ごみ処理場は強烈な異臭と、自然発火によって炎と煙が漂っています。火を消すためにごみの上には土をかぶせているため、足元はごみと土でいっぱいです。日本のようなごみ分別はされておらず、なかには燃えるごみ、ペットボトル、金属、ガラスといった様々な種類のごみが落ちています。車のフロントガラスも落ちていました。私達がホテルで捨てた飲み物や食べ物のごみもそこにはあったでしょう。

ごみ処理場のごみ山には、50人ほどの人が歩いていました。ごみの中でもまだ使えるものはないか探している人たちです。強烈な異臭と暑さの中、マスクや手袋もつけずにごみの中を歩いています。ルサカ市内から到着したごみ収集トラックに、何人もの人が飛び乗り、何か売れるものはないか探す光景もありました。届きたてのごみ収集トラックは、彼らにとっては宝の山なのです。

私達がザンビアを訪れた時期は乾季と呼ばれる時期で、半年間雨が降っていない時期でした。これが雨季になると1日中雨が降り続けるそうです。その時期のごみ処理場は、火こそ起こらないものの、ごみ山を浸透した猛毒の雨水がごみ処理場の裏にあるポンド（池）に流れ溜まっていきます。

ごみ処理場のごみの量、異臭、暑さ、汚水の湖、ごみの中を歩く人々、ごみ処理場の周辺の街の景色…日本では生まれない得も言われぬ感情が私達の心の中に入っていました。現状を知ることができました。でも、問題の規模が大きく個の力では何もできません。このまま放置していいのでしょうか。私達に、なにかできることはないのでしょうか。

※市内の道路にはたくさんのごみが落ちていました。ごみのポイ捨てに関する意識は日本とは違うようです。

※市内には非公認にごみ捨て場が複数箇所存在します。大きいところで5箇所、小さいものも合わせると20箇所以上のごみ置き場が存在します。

※ごみ処理場は2006年から設置され、18年で満杯状態になっているようです。今の捨てる場所がなくなったらどうするのでしょうか。

※1日の稼ぎは100Kほど。日本円でいうと600~700円くらいだそうです。

文章教材はロイロノートでモニター掲示をしながら、各生徒にも手元で見られるよう配布した。また、

文章の途中に写真を導入し、よりイメージがわくよう工夫を図った。本学級在籍の日本語が苦手な生徒には、ALTの先生に翻訳をしていただいた英語版のものを配布した。

#### 【帰国後の学年集会】



学年集会をもち、ザンビアについて学ぶ機会を設けた。学級の壁を越え、学年全体がザンビアを学ぶ機会となった。質疑応答の場面も盛り上がり、集会後は学年全生徒におみやげ（ザンビアの硬貨）を渡した。家庭でも話題があがったようで、保護者からも感謝の声をいただいた。

#### 【校内掲示物】



校内昇降口前にザンビアに関わる掲示物（レポートと現地で入手したチテンゲ、貨幣、工芸品など）を作成し、展示した。生徒もだが、教職員や保護者の目にもとまっていた。自然とザンビアと触れる場を設けることができ、多くの生徒たちはザンビアの国旗を覚えていた。